

平成20年度
全国学力・学習状況調査
大東市の概要

本年4月22日、全国学力・学習状況調査が実施され、8月29日にその結果が公表されました。

調査の内容は、小学校6年生と中学校3年生全員を対象に、国語及び算数・数学で基礎的・基本的な知識を問うA問題と知識の活用を問うB問題による「学力調査」、児童生徒に学校生活や家庭生活の様子をたずねた「児童・生徒質問紙」、各小・中学校に取り組み状況や教員の意識についてたずねた「学校質問紙」からなっています。

もちろん、2教科だけの学力調査と一度だけの質問紙調査で、児童生徒一人ひとりのすべての学力や生活実態が表されたとは言えません。また、調査結果の良し悪しが、そのまま各学校の評価に結びつくものではないと考えています。

なお、調査項目にはありませんが、毎日楽しく登校する多くの児童

児童生徒やクラブ活動で好成绩をあげている学校があります。

教育委員会としては、今回の結果を十分に分析・活用することにより、学校・家庭が連携しながら、児童生徒の学習に対する意欲や生活習慣をより一層望ましい方向に改善して行く手がかりとしていきたいと思えます。

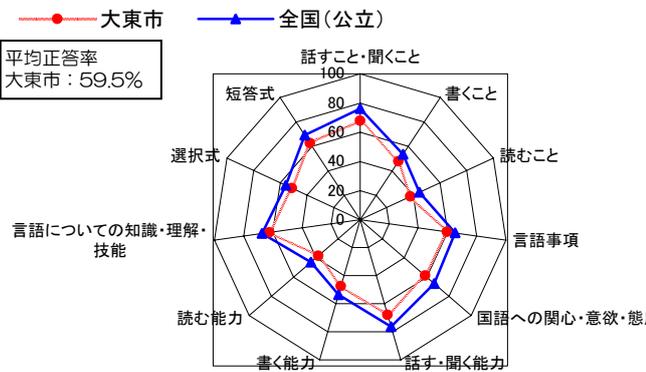
●学力調査の結果より

「知識の活用に課題！」

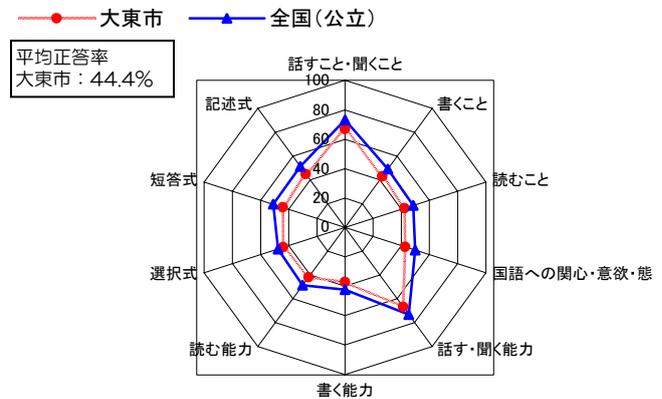
小学校算数A問題での整数・小数の四則計算や中学校国語A問題での言語事項（漢字の読み・書き）はおおむねよくできていたが、全体的には**基礎的・基本的な知識の習得が必ずしも十分とは言えません**でした。

また、全国の傾向と同様に知識を活用する力を問うB問題の正答率が全体的に低い結果にあります。基礎的・基本的な知識をもとに考えをまとめたり、意見を発表したり、他の課題に生かしたりといった**知識の活用に課題**が見えてきました。

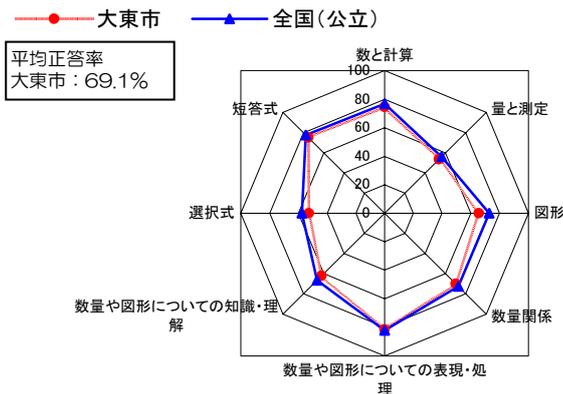
小学校 国語A(領域別正答率)



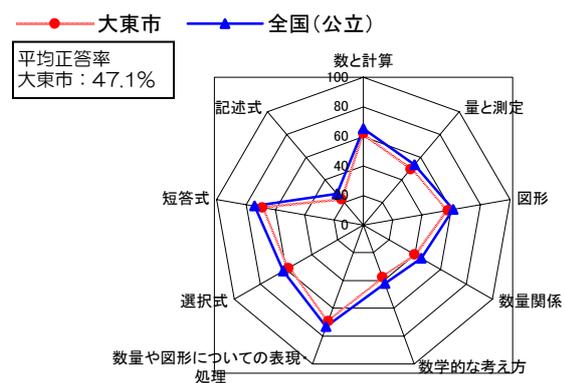
小学校 国語B(領域別正答率)



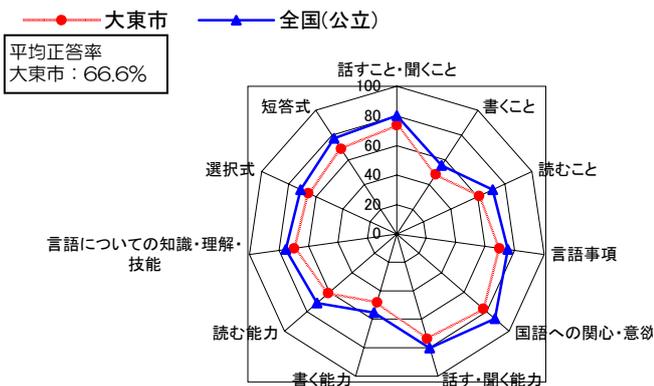
小学校 算数A(領域別正答率)



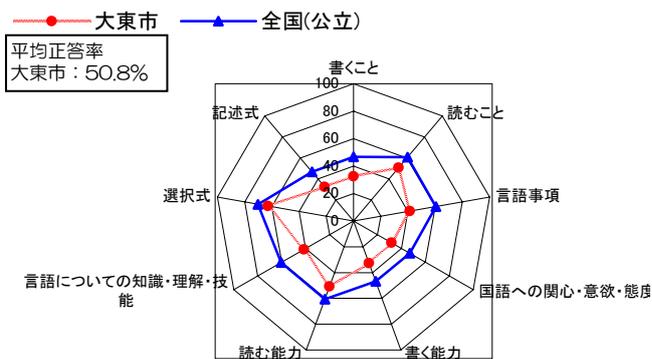
小学校 算数B(領域別正答率)



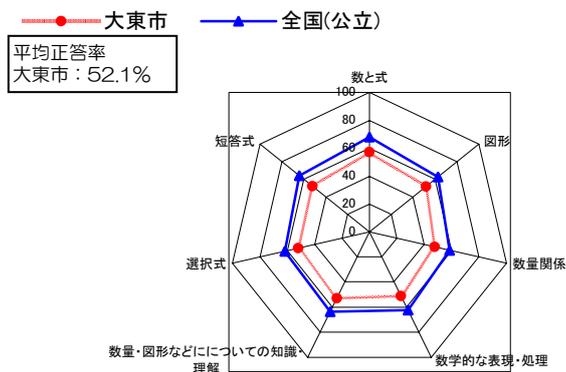
中学校 国語A(領域別正答率)



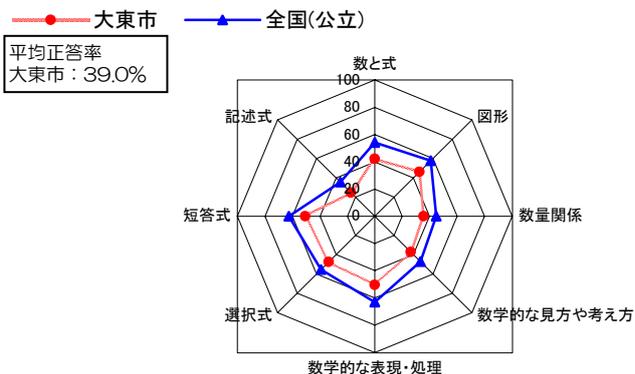
中学校 国語B(領域別正答率)



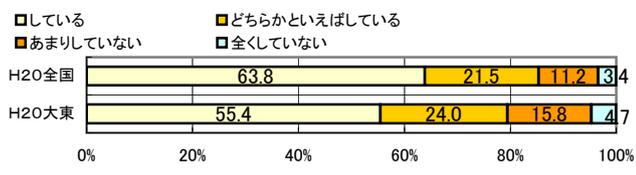
中学校 数学A(領域別正答率)



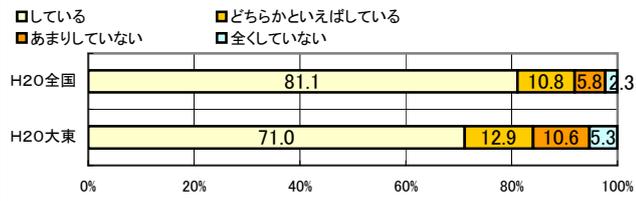
中学校 数学B(領域別正答率)



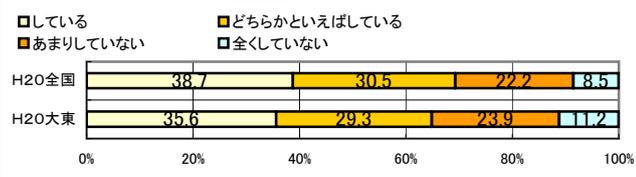
学校に持っていくものを前日か、その日の朝に確かめていますか(小学校)



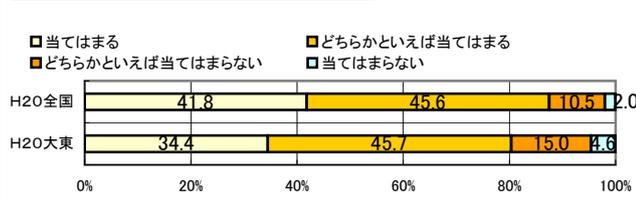
朝食を毎日食べていますか(中学校)



家の人と学校での出来事について話をしていますか(小学校)



学校の規則を守っていますか(中学校)



● 児童生徒質問紙より
「生活習慣と学力に深い関係！」

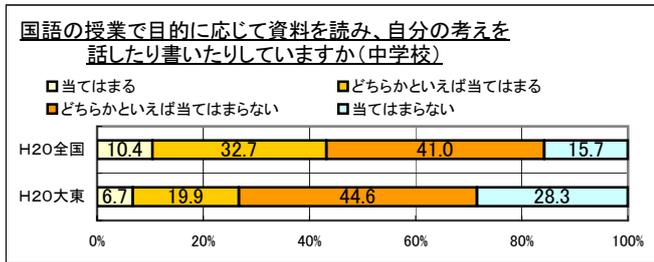
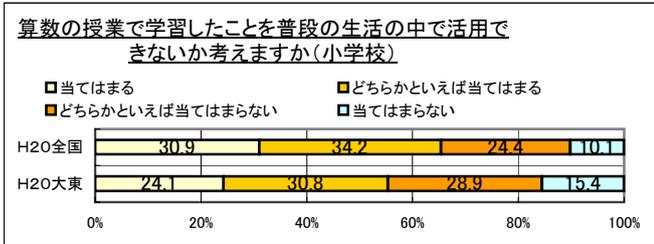
大東市では、学校に持っていくものを毎日家で確かめている児童や、朝食を毎日食べている生徒の割合が全国平均と比べて10ポイント前後低いことがわかります。また、家で学校の出来事について話をしている児童や、学校の規則を守っていると答えた生徒の割合も、全国に比べて低い値になっています。

さらに注目すべき点は、持ち物を確かめない児童や朝食をきちんと食べない生徒、家で学校のことを全く話さない児童や学校の規則を守らない生徒は、そうでない児童生徒に比べ、各教科ごとの平均正答率が10ポイントから20ポイント程度低い結果になっています。ここでは、グラフを示していませんが、深夜1時頃まで起きている児童生徒や朝8時以降に起床する児童生徒についても、早寝早起きの子どもに比べて、正答率が低いことが明らかになりました。

児童生徒にとって 必要な学力とは？

「算数の授業で学習したことを
普段の生活の中で活用できないか
考えますか」という質問や「国語
の授業で目的に応じて資料を読
み、自分の考えを話したり、書い
たりしてありますか」という質問
で、「当てはまる」と答えた児童
生徒の割合が全国平均より低く
なっています。

授業で指導した内容が児童生徒
の実生活に生かされていないこと
がうかがわれます。



見えてきた課題の 解決のために

「わかる授業」をめざします！

今回の調査を受け、学校では結
果的に教科書の内容を伝えるだけ
の授業にならないよう考えをま
めて文章にしたり、意見を発表し
たり、他の問題に生かしたりする
「活用」の力を育てる場面を積極
的に設定してまいります。

また、一緒に学ぶ仲間が互いに
支えあう人間関係を大切にし、そ
の中で意見を交わしたり、受け止
めたりできるような授業の場面作
りにも努めます。

授業の内容を理解できていない
児童生徒の状況をよく把握して、
わかりやすい説明の仕方や教材教
具の活用を工夫することは、特別
支援教育で指摘される「学習や生
活面で課題のある子どもは『困っ
た子ども』ではなく『困っている
子ども』ととらえることの大切
さ」に通じるものであり、**学ぶ側
の視点に立ったわかる授業作りを
めざします。**

ご家庭の協力が必要です！

今回の調査で児童生徒の学力
は、必ずしも学校における教科の
学習活動だけに左右されるもので
はなく、基本的な生活習慣と深い
関係があることがわかります。

早寝早起きや毎日の朝食に限ら
ず、テレビやビデオ、インタ
ネットの時間、携帯電話の購入・
使い方など、**ご家庭の理解と協力
なしでは、より良い生活習慣を定
着させることはできません。**

ぜひ、ご家庭での会話も含め、
これまで以上に子どもたちに対す
る助言と手本を示していただきた
いと思います。

大東の子どもたちの いいところを大切に

小学校では、「読書が好きです
か」という質問に対して「好き
だ」と答えた児童の割合は、全国
平均を上回りました。

これは、何よりもご家庭におい
て読書をする環境作りに配慮して
いただいていることが大きな要因
だと考えられます。

また、各学校でも、市全体で取

組んできた「国語力向上事業」
等により、学校で読書する時間
を積極的に取り入れるなど、国
語力の育成をすすめてきた成果
が現れてきたと考えられます。

中学校では、「いじめはどん
な理由があってもいけないこと
だと思いませんか」という質問に
対して「いけないと思う」と答
えた生徒の割合が全国平均を上
回りました。

子どもたちのこれまでの成長
過程において、ご家庭や学校で
の人権尊重に関する助言・取組
み等が確実に浸透していること
をうれしく思います。

今後も、大東の子どもたちの
いいところや課題を的確に把握
し、健やかな成長のために取り
組んでまいります。

市民の皆様のご理解とご協力
をお願いいたします。



本件に関する問合せ先
大東市教育委員会事務局
教育政策室 870-9643